

(3) 水産業の健全な発展

(3) - 1 流通の多角化・強靱化

〈多様で革新的な流通モデル実践事業〉 事業費:10,000 千円

(補助先:滋賀県漁業協同組合連合会)

～事業の背景～

琵琶湖漁業は高齢化が進み生業としての承継が課題となる中、コロナ禍をきっかけに、流通停滞や魚価低迷等、既存の流通体制では漁業操業の工夫だけでは対処できない現状が明らかとなりました。琵琶湖漁業の維持発展のためには、流通の多角化と、漁業者を束ねる漁業組織の漁業経営スキルの強化が必要となっています。

～事業の内容～

令和3年度より新たに、経営スキルの強化とコロナ禍で改めて露呈した既存流通の脆弱性の改善を目的に、漁業組織が流通事業者と連携して新たな販路の検討・実践を行う取り組みを支援しています。

令和4年度は、アユの稚魚“氷魚（ひうお）”の首都圏へ向けた流通をモデルに、県内集出荷体制の試行と販路開拓の検討が行われました。



滋賀県漁連による首都圏での氷魚（ひうお）テスト販売（都内百貨店）

〈県がセールスマンとして“湖魚”のPR・消費拡大に取り組む事業〉 事業費：7,000 千円

～事業の背景～

新型コロナウイルス感染症の影響により、流通停滞や魚価低迷等、既存の流通体制や漁業操業の工夫だけでは対処できない現状が明らかとなりました。コロナ後を見据え“湖魚”の戦略的なPRに、本県水産業全体の振興の観点から、県が主導して取り組むとともに、世界農業遺産に「琵琶湖システム」が認定されたことを湖魚の認知度向上の好機と捉え、そのストーリー性を活かして琵琶湖八珍の魅力をPR、湖魚の消費拡大につなげます。

～事業の内容～

- ・新たな湖魚の需要を掘り起こし、漁協・事業者等の販促活動をサポート。
- ・湖魚の魅力や旬の情報を“琵琶湖システム”のストーリーと共にWEBサイトで発信。
- ・「琵琶湖八珍マイスター」とともに“琵琶湖システム”の魅力をPR。特に令和5年は、漁業見学やメニューフェアなど、年間を通じて湖魚を堪能できる“琵琶湖システム”との連動企画を展開。

～琵琶湖八珍～

「琵琶湖八珍」は琵琶湖を代表するビワマス、コアユ、ハス、ホンモロコ、ニゴロブナ、スジエビ、ゴリ、イサザの計8種の魚介類で構成しています。平成25年末、滋賀県立安土城考古博物館が来場者への湖魚料理人気アンケートを基に供給量などを考慮し選定したものです。

滋賀県では、琵琶湖を代表する8種の魚介類「琵琶湖八珍」を提供する飲食店や旅館、土産物店などに「琵琶湖八珍マイスター」として登録いただき、湖魚の消費拡大とブランド化に向けてともに取り組んでいます。

琵琶湖のおいしい幸、8つ



琵琶湖八珍



〈しがの漁業担い手スキルアップ事業〉 事業費:12,450 千円(委託)

委託先:滋賀県漁業協同組合連合会、民間事業者

～事業の背景～

県内の漁業就業者数は高齢化が進むとともに減少の一途を辿っており、担い手の確保と育成が喫緊の課題です。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響による流通停滞、魚価低迷等、漁業操業の工夫だけでは対処できない現状が明らかとなりました。琵琶湖漁業の維持発展のためには、琵琶湖漁業全体の販売力の強化が必要となっています。

～事業の内容～

『しがの漁業担い手スキルアップ事業』は3つの事業で構成されています。

(1) 担い手のステップアップサポート (しがの漁業担い手ステップアップサポート事業)

平成 28 年度に創設した「しがの漁業技術研修センター」による漁業就業希望者への就業相談や実地研修に引き続き取り組むとともに、研修後の確実な定着を図るため、研修卒業生や若手漁業を対象とした漁業技術や漁家経営に関する勉強会等を行います。

(2) 担い手の販売スキルアップ (しがの漁業担い手販売スキルアップ事業)

飲食店等の実需者との連携を通じて、ニーズの把握や漁獲物の品質向上等、「儲かる漁業」の意識醸成を図り、漁業担い手のスキルアップに取り組めます。

(3) さらに意欲的な担い手を支援 (熱い漁業担い手育成事業補助金)

湖魚販売や湖魚食普及に意欲的に取り組む担い手団体の活動を支援します。

～事業の実績～

平成 28 年度の研修制度創設以降、新たに 18 名 (令和 5 年 3 月時点) が漁業者として就業しています。



漁業研修の様子